

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 12
2016・7・1

1 ドイツ連邦食料・農業省の 2020 年度政府予算案が閣議決定される
一連邦農業省の歴史上最も大きな財政成長一 (2019・6・26)

持続的、近代的な農業・農村地域とバランスのとれた栄養が重点

連邦閣議は、今日（6月26日）2020年度連邦財政の政府案並びに2023年度までの財政計画を決定した。過去の財政年度の積極的な進展は、食料―農業政策に係る財政のさらなる増大でもって継続できた。来年度の連邦農業省の総予算（訳注・食料農業省の予算―個別プラン10）は、65億1800万ユーロ（約8473億4000万円）の額になった。

今年度に対して1億9400万ユーロ（約252億2000万円）の増大である。

これは連邦食料・農業省の歴史の中で、最も大きな財政規模である。これについてクレックナー大臣が説明：”農業は生命産業である。我々は、強力でかつ地域的、多面的なそして農民的な農業に対して、共通の関心を有している。緑の職業は、我々の国における裕福さのために不可欠なものである。我々は国の財政でもって、農業のさらなる発展と将来への指向を支えていく。

我々は気象―環境保護と家畜の福祉について、増大する社会的要請と期待を正当に評価し、家畜保護を支援する。そのため、我々は農業のデジタル化と畑作戦略、より多くの家畜の福祉のために、家畜飼育の分野における財政を明確に増大させている。我々は海、森林、畜舎、畑での近代的、持続的かつ家畜の福祉に適応した管理方法に集中的に投資する。

家畜の保護と気象保護、環境保護の組合せにおいて、そして家畜戦略のための財源を、1500万ユーロ（約19億5000万円）から3770万ユーロ（約49億円）に増加した。同じく我々は、より多くの財源を将来的な知能の分野でのプロジェクトにも明確にすることから、デジタル化の課題にも財源を準備した。

その際この財源は、農業者について収穫と収益を確保し、そして同時に資源を大事にした生産を支援する。例えば、農薬の正確なそしてより少ない使用をもって。我々は畑作戦略でもって種の多様性のために、より多くの生息空間を準備する。そして土壌、栽培地をより良く気象に適応させる。我々は森林の干ばつ被害地で樹木がよく成長するように、森林の状況をより強く視野に入れる。”

クレックナー大臣は、食料政策の中で将来的により強く、様々な生活年代を視野に入れたいとしている。：“我々にとって重要なこと。我々が様々な目線の先に、バランスある栄養が根づくことである。我々は閣議で新たに決定された既製品の中の砂糖、脂肪そして塩の減少のための国内戦略と並んで、幼少段階から高齢者までの全生涯段階における戦略構想を強化する。そのため、消費者情報並びに適切な施設と団体の奨励財源を大きく増額した。

EU の共同課題「農業構造と海岸保全の改善(GAK)」における農村地域発展の特別大枠プランの新たな強化は、生存の価値ある農村地域のための政策でもって基礎を固める”と、大臣が続けた。同時にボランティア活動とデジタル化のインフラ構造もまた、強化される。決定的なことは、ドイツにおいて地方が他に依拠しないことである。このため、クレックナーは EU 委員会と共同の議長として、農村地域に係る同価値な生活関係の政策を強化していく。

ドイツ連邦食料・農業省 2020 年度財政案

目的設定 (要約)	2020 年案 100 万 ユ ーロ	2019 年 100 万 ユーロ	2020/2019 変化	
			100 万 ユーロ	%
農業社会政策 (1001 章)	4 111,0	4 032,2	78,8	2,0
内 訳一農業高齢者年金	2 420,0	2350,0	70,0	3,0
一農業事故保険	177,0	177,0	0,0	0,0
一農地早期譲渡年金	14,0	15,0	-1,0	-6,7
一農業者疾病保険	1 465,0	1 456,0	9,0	0,6
一高齢者補完給付金	34,0	33,0	1,0	3,0
一農業就業休止	1,0	1,2	-0,2	-16,7
健康上の消費者保護と食料 (1002 章)	212,6	194,6	18,0	9,2
内 訳一連邦リスク評価研究所 (BfR)	114,6	107,8	6,8	6,3
一連邦消費者保護局 (BVL) (1017 章)	65,0	62,0	3,0	4,8
一消費者情報	9,9	8,0	1,9	23,8
一バランスある栄養奨励政策	15,7	12,0	3,7	30,4
一ドイツ栄養研究センター	2,5	0,0	2,5	-

共同課題” 農業構造と海岸保全の改善(GAK)”	965,0	900,0	65,0	7,2
内 訳ー海岸保全政策特別プラン	25,0	25,0	0,0	0,0
ー GAK の予防的洪水保護政策特別プラン	100,0	100,0	0,0	0,0
ー農村発展奨励特別大枠プラン	200,0	150,0	50,0	33,3

市場組織 緊急事態対応 (1004 章)	150,2	134,6	15,6	11,6
内 訳ー信用取引融資	3,0	3,0	0,0	0,0
ー連邦食料・農業局 (BLE)	121,5	105,8	15,7	14,8
ー緊急事態対応	21,0	21,0	0,0	0,2

持続性 研究 革新 (1005 章)	469,6	452,3	17,3	3,8
内 訳ーモデルデモンストレーション計画	4,8	6,0	-1,3	-20,8
ー連邦農村発展計画	72,7	70,0	2,7	3,8
ー再生可能原料	74,0	84,1	-10,1	-12,0
ー革新奨励	53,0	56,8	-3,8	-6,7
ー世界食料のための国際研究共同活動	9,9	10,0	-0,2	-1,5
ー農業と園芸のエネルギー効率	24,6	31,4	-6,9	-21,8
ー畑作戦略	15,5	10,0	5,5	55,0
ー有機農業/持続的農業	28,9	30,0	-1,2	-3,8
ー蛋白作物戦略	5,8	6,0	-0,2	-3,3
ー家畜の福祉表示	20,0	33,0	-13,0	-39,4
ー家畜の福祉政策	28,0	10,0	18,0	180,0
ー家畜飼育連邦プログラム	37,7	15,0	22,7	151,3
ー農業のデジタル化	24,0	15,0	9,0	60,0

内 訳ー対外貿易関連の強化	4,0	3,0	1,0	33,3
ー相互技術共同活動	19,0	19,0	0,0	0,0
ー FAO との共同活動	15,7	15,7	0,0	0,0
ー国際組織への貢献	29,6	28,8	0,7	2,5
ー国際的な持続的森林管理	6,5	6,5	0,0	0,0

その他の認可 (1010 章)	-90,9	-55,1	-35,8	64,9
内 訳ー包括的な支出削減	-110,6	-74,3	-36,3	-48,9

主要な行政管理施設 (1011 章)	126,4	121,7	4,7	3,8
内 訳ー給与支出	77,5	77,5	0,0	0,1
ー会議 集会 見本市 展示	20,2	16,0	4,2	26,0

連邦省 (1012 章)	119,4	110,9	8,5	7,7

所管分野 (給与支払い含まず)	379,0	358,4	20,5	5,7
内 訳ーユリウス キューン研究所 (1013 章)	100,2	95,1	5,1	5,3
ーフリードリッヒ ロエフラー研究所 (1014 章)	108,2	103,8	4,4	4,3

ーマックス ループナー研究所 (1015 章)	58,8	57,2	1,7	2,9
ーヨハン ハイน์リッヒチューネン研究所 (1016 章)	85,0	80,4	4,7	5,8
ー連邦種子局 (1018 章)	26,7	22,0	4,7	21,3
個別プラン 10	6.518,1	6.323,8	194,3	3,1

2 連邦農業大臣：2018 年度ドイツの有機農業の新しい構造データを公表

ー全農地面積に対する有機面積の割合が 9,1%に拡大ー (2019・6・24)

クレックナー大臣：我々の奨励手段が効果をー有機農業の割合が拡大
2018 年度ドイツにおける有機農業は、明らかに成長している。この前向きな傾向は続いている。数次的に：ドイツにおいて有機農法で管理している農地は前年対比で約 10,8%拡大し、約 150 万 ha となり、全農地に対する比率は 9,1% になった。2018 年の単年度で有機栽培の農地は、約 15 万 ha 増加した。

有機農業経営の数もまた、約 32 000 経営と 7,9%増加している。この数字は、今、連邦食料・農業省が公表したものである。これについてクレックナー大臣：我々は有機栽培の奨励財源を、緩やかに増加させている。今年の進展はこの効果である。有機農業に対する消費者の需要増のみでなく、常により多くの農業者が経済手段を切り替えたいとする要望であり、それは同様に増大している。

なぜならば、我々は農業経営者のための頼りとなり、奨励と研究の推進を目的としている。我々は、有機または慣行でもって経営する農家家族を、良き相互連携者とみている。この発展は合致している：慣行栽培は常に持続的であり、有機栽培は能率的である。転換への決定は、生産者に委ねられている。そのため、我々は政策分野において勇気づけ、ハードルを低くしそして政策の広範な準備でもって支援する。

これが受け入れられ、そして効果を及ぼす。これを新たなデータが証明する。大臣は、有機農業のために活用できる奨励財源を、50%増と明らかに増大させた。毎年 2 000 万ユーロ（約 26 億円）から 3 000 万ユーロ（約 39 億円）に拡大した。

ドイツにおける有機農業のための奨励手段

- 1 有機農法で管理する経営への転換のための奨励金支払い
- 2 有機農業経営維持のための奨励金支払い

- 3 EU ー共通農業政策（GAP）の第 2 の柱からの農村発展発展プログラムにおける奨励金
- 4 GAP の第 1 の柱からの直接支払い：基礎奨励金再分配奨励金ーグリーンプレミア 緑化義務の免除
- 5 有機栽培の研究と普及の奨励 専門知識のアドバイス提供並びに消費者、農業者、加工企業またはレストランへの知識伝達政策ー連邦プログラム・有機農業と持続的な農業の他の形態（BÖLN）
- 6 蛋白作物戦略の領域における有機経済手法の奨励
- 7 有機経営のための農業投資奨励プログラム
- 8 加工ー販売構造改善のための奨励 農産物または魚産物
- 9 毎年開かれる有機農法連邦コンクールに際して、高い評価の革新的な考えと将来を指向した有機分野の経営構想。今年度の応募期限は 7 月 28 日に終了する。

ドイツにおける有機農業に関する目下の構造データ並びに過去のデータもまたここにある。

背景：

ドイツにおける全農地に対する有機農業面積は、バイエルン州が約 23%、バーデンービュテンベルグ州が約 13%が、最も大きな面積割合を有している。

これに続くのがブランデンブルグ州の約 11%、メクレンブルグーフォアポーマルン州の約 10%である。前年に比して地域的に大きく伸びたのは、ザクセンーアンハルト州の 29%であった。

2018年度ドイツにおける有機農業の構造データ
(ドイツ連邦食料・農業省)

州	全農地面積 (ha)	全経営数	有機農業 面積 (ha)	有機農業 経営数	全農地への 有機農業の 割合 (%)	州有機農 業の全国 割合 (%)
バーデンービュテンベルグ	1 413 400	39 610	197 751	9 290	14.0	13.0
バイエルン	3 099 900	86 480	34 517	9 871	11.0	22.5
ブランデンブルグ	1 323 400	5 220	16 653	883	12.3	10.7
ハッセン	770 900	15 860	113 368	2 245	14.7	7.5
メクレンブルグーフォアポーマルン	1 346 400	4 790	157 976	939	11.7	10.4
ニーダーザクセン	2 601 300	35 850	107 694	1 953	4.1	7.1
ノルトラインーヴェストファーレン	1 449 400	31 030	85 320	2 161	5.9	5.6

ラインラント・プファルツ	706 900	16 720	74 064	1 574	10.5	4.9
ザールラント	74 900	1 140	12 324	251	16.5	0.8
ザクセン	800 800	6 340	61 900	750	6.9	4.1
ザクセン・アンハルト	1 169 000	4 220	93 973	566	8.0	6.2
シュレースビークホルシュタイン	98 740	12 370	61 365	715	6.2	4.0
チューリンゲン	776 800	3 430	46 637	387	6.0	3.1
都市国家 計	24 500	830	3 772	128	15.4	0.2
合 計	16645100	263 860	1521 314	31 713	9.1	100.0
	全農地への州の有機農業の割合(%)	ドイツ全体の有機農業への割合(%)				
バテンビュルテンブルグ	23.5	29.3				
バイエルン	11.4	31.1				
ブランテンブルグ	16.9	2.8				
ハッセン	14.2	7.1				
メクレンブルグ・フォアポームルン	19.6	3.0				
ニーダーザクセン	5.4	6.2				
ノルトライン・ヴェストファーレン	7.0	6.8				
ラインラント・プファルツ	9.4	5.0				
ザールラント	22.0	0.8				
ザクセン	11.8	2.4				
ザクセン・アンハルト	13.4	1.8				
シュレースビークホルシュタイン	5.8	2.3				
チューリンゲン	11.3	1.2				
都市国家 計	15.4	0.4				
合 計	12.0	100.0				

3 家畜への抗生物質投入を削減－抵抗力を改善

(2019・6・19)

クレックナー大臣は、閣議に抗生物質削減計画の評価に関する報告書を提出した。抗生物質の耐性は、人間医学－獣医学において、1つの重大な世界規模での問題である。家畜飼育の分野における抗生物質耐性の拡大に対して、ドイツは2014年に薬剤法の第16回改正でもって、肥育豚の抗生物質削減計画を取り入れた。この計画は連邦食料・農業省から分析・評価された。その数値は2014年第2半期から2017年まで調査された。連邦閣議は今日の会議において、連邦大臣クレックナーから提出された報告を審議した。

中心的な成果：

- ・抗生物質の全6つの使用種類についての総使用量は、調査期間において298 tから204 t（訳注・飼料混合含む）に、約31,6%削減された。
- ・より強い削減は豚において達成された。肥育用仔豚は－46%(87,5t から47,2tに) 肥育豚は－43%(115t から65,2tに)
- ・肥育用七面鳥は－4%(38,1t から36,7tに) 肥育鶏は－1%(29,7t から29,5tに) 肥育仔牛は－4%(26t から25tに)

- ・肥育牛に関して達成した削減は－76%になった。これは投入された量が、最初1,7tで観察期間の最後は0.4tで、合計して非常に少ない量であった。
- ・予備の抗生物質は、豚と肉牛についての投入量が削減された（それぞれ10%よりも少ない量であった）。肥育鶏と肥育七面鳥は、それぞれの40%の使用量であった。

これについて連邦大臣クレックナー：畜舎においてもそして家畜においても抗生物質の使用が多すぎる。私の省は抗生物質の使用減少に、重点的に取り組んでいる。我々の調査によって、今最初に特定の種の家畜飼育において（つまり豚、肉牛、鶏そして七面鳥）、公的な数字を初めて得ることができた。

重要な知見：全体的な耐性状況は改善されている。肥育家畜の抗生物質投入が全体的に、約1/3に減少している。特に肥育豚と肥育用仔豚において、著しい減少がみられる。抗生物質の最小限化のための、我々の革新的なシステムが機能している。肥育鶏と肥育七面鳥への抗生物質の使用量の減少が、報告から明らかになっている。なによりもまず、人間の特定の感染症治療に用いられる抗生物質が、いわゆるリザーブの抗生物質の投入範囲としても難しくなる。

クレックナー大臣：リザーブ抗生物質（訳注・多剤耐性菌感染による生命の危機に陥り、他の全ての抗菌剤による治療が失敗したとき、最終手段として用いる）に関する高い割合は際立ってない。なぜならば、高い効果のリザーブ抗生物質は非常の場合のみ、そして入念かつ慎重に考慮して使用されるべきである。そのことによって、定期的な使用による耐性のみが形成される。この専門分野は、取り扱うことに義務が生ずる。我々は調査する。我々は専門分野からも、経営における現状の持続的な改善について、配慮するための提案と行動を期待されている。大臣はこれとの関連でこの専門分野の代表者を、省における時代に即した対話のために招くことを予告している。

背景：

薬品法改正のための第 16 回の法でもって（16AMG-改正法 2014 年 4 月 1 日発効）、ドイツにおいて特定の肥育家畜における抗生物質投入の広範な削減のための、最初のシステムが確立された。特定の家畜とは、6 つの利用種類、肥育仔豚、肥育豚、肥育仔牛、肥育牛、肥育鶏、肥育七面鳥である。この抗生物質削減戦略の中心点は、自らの家畜飼育現況における抗生物質投入報告について、飼育者の義務規定である。

抗生物質使用削減のための対策を講ずることが、家畜飼育者の義務である。そして管轄局による経営上の治療頻度が調べられる（経営での治療行為が一定の数値を超えた限りにおいて）。AMG の規定後連邦省は、発効 5 年後に削減対策の有効性を検証し、そしてドイツ連邦議会に報告書を提出する。この報告は、連邦リスク評価研究所と連邦食の安全と消費者保護局の共同作業で、連邦食料・農業省が作成する。

この報告書の重点は、各州の 227 万データレコードである。このデータは、第 16AMG -改正の実行分野において、2014 年の第 2 半期から 2017 年第 2 半期までの期間内に収集されたもので、その成果を活用する。連邦大臣クレックナーは、家畜飼育者における抗生物質の使用が、G20-農業大臣会議でも議事日程にのぼったことを心配している。世界的に抗生物質の投入を削減し、そして治療的な投入にのみ制限すること。つまり、家畜群における予防目的のため、または成長奨励のための日常的な抗生物質投与を、無条件に放棄することである。

2019・6・30 訳

青森中央学院大学

中川 一徹